

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

～“倍返し”はいつ来るの？～ (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 中里 信介

今週のドル円予想レンジ **106.30 ~ 107.80**

りそなWEEKLY COLUMN

レジ袋有料化を前向きに考える (P3)

りそなホールディングス 市場企画部
エコノミスト 村上 太志

- 7月より開始したレジ袋有料化の目的は環境問題への意識改革
- 今回の施策で「本来原価があるはずのレジ袋に対価が支払われる」という副作用
- レジ袋有料化が環境問題以上に日本人のデフレマインドを払拭する意識改革につながるのではないかと期待

2020/7/20

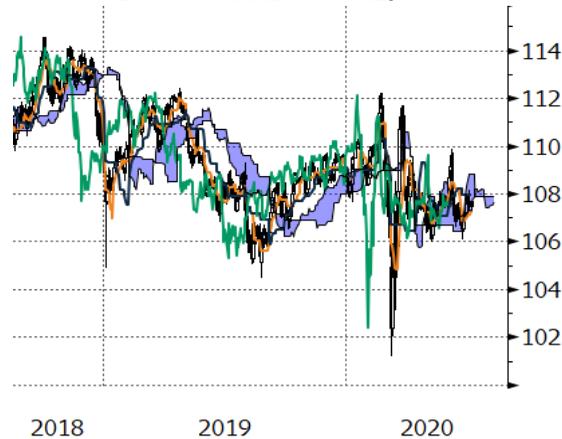
りそな外為レポート

～“倍返し”はいつ来るの？～

今週のドル円予想レンジ **106.30 ~ 107.80**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週は、日銀及びECBと中銀の政策決定会合が続いたが注目ならず。引き続き、新型コロナウイルスの動向に注目が集まった。現在、ワクチン開発のトップランナーである米・モデルナは“第一段臨床試験で被験者全員に抗体を確認した”と報じられるなど、ワクチン開発合戦は激化している。また、ユーロ圏では7,500億ユーロ規模のコロナ復興基金で足並みが乱れている。当初18日までの予定であったEU首脳会議が延長され、儉約4カ国(オランダ、オーストラリア、スウェーデン、デンマーク)へ一定の譲歩が行われているものの、合意は得られていない。

東京都の新型コロナウイルス感染者数に一喜一憂するなか、GoToキャンペーンから東京都が脱落し片道切符の島流しへ。マスク問題に引き続き、今度はGoToキャンペーン問題が火種となり日本国内のゴタゴタは収まらないものの、為替相場はどこ吹く風と反応は示さず。ドル円相場は安心安全の107円近辺へと収束する中、果たして“倍返し”は訪れるのか？次週以降の展開に乞うご期待！

(早くも来週の“倍返し”を期待するカスタマーディーラー 中里信介)

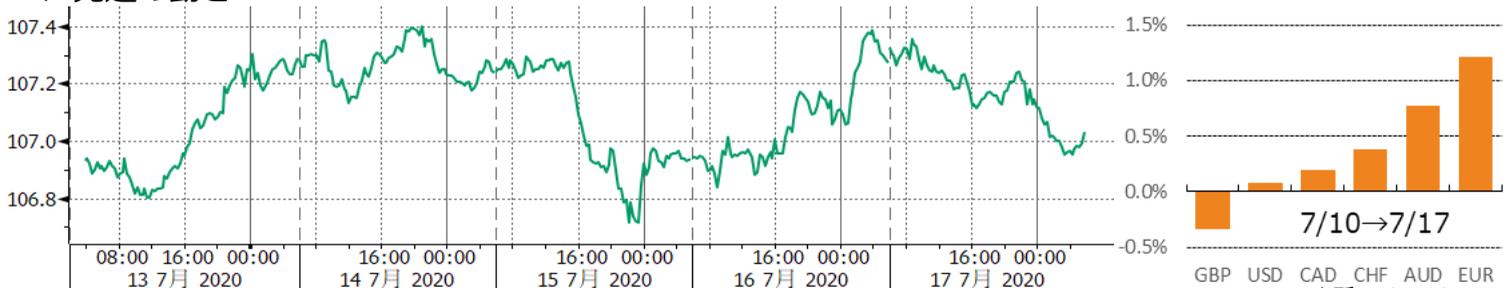
◆今週の日程

20日(月)日	6月貿易統計	22日(水)米	6月中古住宅販売
20日(月)日	日銀金融政策決定会合議事要旨	22日(水)米	20年国債入札
21日(火)日	6月CPI	23日(木)欧	7月PMI
21日(火)日	20年国債入札	23日(木)米	6月景気先行指数
22日(水)日	7月政府月例経済報告	24日(金)米	6月新築住宅販売件数

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 7月17日(金) 107.02円 VS 7月24日(金)

東京							大阪			埼玉						
井口	中根	湊	小新	鳥井	田中	浦本	中里	伊藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤	佐藤
↑	↓	↑	休	↑	↓	休	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↑	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/7/20

りそな WEEKLY COLUMN

レジ袋有料化を前向きに考える

- 7月より開始したレジ袋有料化の目的は環境問題への意識改革
- 「本来原価があるはずのレジ袋に対価が支払われる」という副次的な効果
- レジ袋有料化が環境問題以上に日本人のデフレマインドを払拭する意識改革につながるのではないかと期待

りそなホールディングス 市場企画部
エコノミスト 村上 太志

レジ袋有料化が 7月から開始



7月から小売店でのレジ袋有料化措置が開始されました。この政策については環境問題への効果を期待する声がある一方で、海洋プラスチック問題との絡みでは「海洋プラスチックでレジ袋の占める割合はわずかにすぎない」とか、「レジ袋はごみ袋として再利用しているので結局代替のビニール袋を買うことになる」など、効果を疑問視する声もよく聞かれ、賛否両論といえます。筆者を含め利便性を考えると7月以降もレジ袋を使い続ける人も一定数いると思いますし、代替品が必要であることを考えると実際のごみ削減効果は限定的かもしれません。

レジ袋有料化の目的について、所管となる経済産業省のHPでは廃棄物・資源制約、海洋プラスチック問題、地球温暖化などの課題を指摘しつつも、最後には「普段何気なくもっているレジ袋を有料化することで、それが本当に必要かを考えていただき、私たちのライフスタイルを見直すきっかけにすること」とあり、実際のレジ袋削減効果よりも意識改革を促すような狙いがあると考えられます。実情としては、すこぶる評判の悪い日本の環境対策への見方を是正するため国際社会にアピールをする目的と、レジ袋のコスト転嫁ができる小売店の利益が合致したため、政策としてスムーズに進んだというところでしょう。

この施策により狙い通り環境問題への意識改革につながれば、それは意味があるかもしれません。一方で、個人的には今回の施策によって生じる副次的な効果で1点良い方向と感じていることがあります。それは、本来原価があるはずのレジ袋に対して正当な対価が支払われるようになるということです。レジ袋の原価は定かではありませんが1枚2-3円程度と推察すると、一般的なコンビニやスーパーにおいてコストを大幅に上回る対価を設定している訳ではありません。今までは商品の売上によりレジ袋の原価を吸収していたわけですが、この施策に関わらずエコバックを持ちレジ袋を利用しない人も増えたなかでは、レジ袋に正当な対価設定をすることが、むしろ健全で公平とも言えそうです。

「レジ袋」の 対価が支払われ るといふ副次的 な効果

2020/7/20

りそな WEEKLY COLUMN

日本人に定着した デフレマインド

レジ袋有料化の施策に対して、「理由もないのに対価をとるのは実質値上げで納得できない」と許容できない方は、デフレマインドが強く定着してしまっているかもしれません。日本はバブル後長らく続いたデフレ時代により、物価が上がらない環境に人々が慣れ切ってしまいました。「値段があがらない」という感覚が当たり前になると、値上げが許容されにくくなるため、企業としても値上げ戦略をとりづらくなります。所謂「予想物価上昇率が下がる」ということですが、物価が上がりづらい大きな要因として日本銀行も指摘をしていました。

記憶に新しいところでは、大手宅配業者においてネット通販等の普及により需要が急伸し人件費が高騰しているにも関わらず、長らく価格を据え置きせざるを得ませんでした。漸く値上げにこぎ着けるまで多大な調整を必要としたことは、日本社会で如何に値上げが許容されづらいかを示しています。

「お客さまを大事にする」ということは日本社会の美点でもありますが、行き過ぎた結果、過剰サービスに対し正当な対価を設定せず企業努力によりコストを吸収せざるを得なくなる環境は、正常な経済発展の阻害要因となりかねません。現在のコロナ禍のなかでは一層デフレマインドが高まることも考えられますが、これがコロナ後の経済回復の足かせになるような事態は避けたいところです。

賛否両論を巻き起こしているレジ袋有料化ですが、これを機に「サービスにはコストが発生し正当な対価が必要となる」という方向に少しでも日本人のマインドが少しでも向かえば、環境問題以上の意識改革につながるのではないかと密かに期待をしています。

